

小田原市総合計画審議会（第2回）会議録

- 1 日 時 令和5年8月18日（金） 午前9時30分から11時00分まで
- 2 場 所 小田原市役所3階 議会全員協議会室
- 3 出席委員 <対面参加> 11名
荒井 範郎、鈴木 榮子、丸山 秀和、出石 稔、奥 真美、
信時 正人、別所 直哉、有賀 かおる、木村 元彦、
ジェフリー・ギャリッシュ、益田 麻衣子
<オンライン> 4名
秋元 美里、渡邊 清治、関 幸子、佐藤 萌々花

<欠席委員> 3名
川口 博三、崎田 恭平、平井 太郎
- 4 事務局 企画部長、企画部副部長、企画政策課長、企画政策課職員5人
- 5 傍聴者 0名

（次 第）

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 前回の論点に対する事務局の考えについて
 - (2) 第6次小田原市総合計画評価に係る委員間討議
 - (3) その他
- 3 閉 会

1 開会

【出石会長】

皆様、おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から第2回小田原市総合計画審議会を開催いたします。皆様には、お忙しい中、また、お暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。今回はかなり議論時間を要したところです。今回も円滑な審議の方にご協力をお願いいたします。

本日の出席状況ですが、川口副会長、崎田委員、平井委員については欠席の連絡をいただいております。従いまして、本日は、オンラインでの出席委員が4名、11名の委員が対面での出席となっております。小田原市総合計画審議会規則5条2項の規定により、2分の1以上の定足数を達しておりますので、本日の会議は成立しております。

2 議事 (1) 前回の論点に対する事務局の考えについて

【出石会長】

早速、審議に入りたいと思います。

前回、様々な議論があり、なかなか収斂しきれなかった部分があります。委員から出された意見について、市の考え方や方針を伺わないと、その先の審議での整理が難しいのではないかと感じました。そこで、事務局の方で委員からの意見に対する考え方等を整理していただいた上で、本日、委員間討議を行うとしています。

本日、【資料1】前回の論点に対する事務局の考え方を整理しています。まずは、これに関する説明を伺った上で、説明内容を踏まえて委員間討議を実施したいと思います。

では「(1)前回の論点に対する事務局の考えについて」を議題とします。はじめに、事務局から説明をお願いします。

【企画政策課長】

それでは、私から前回の論点に対する事務局の考え方についてご説明をいたします。「【資料1】前回の論点に対する事務局の考え」をご覧ください。1頁目、「総合計画審議会からの意見に対する市の対応方針について」でございます。上段の囲みをご覧ください。前回の議論のとおり、皆様よりいただいた意見に対して、市の考え方・対応方針(案)を【資料2】としてお示しをさせていただきました。また、意見の内容をもとに現段階で修正可能な部分につきましては、【資料3】のとおり、総合計画評価を修正しています。あわせて、前回の議論結果や意見の種類、内容を考慮して、事務局で意見を整理させていただき、【資料3】に設けた「総合計画審議会意見」の欄にその内容を記載しています。この「総合計画審議会意見」は、下の図で示しているとおり、【資料2】における「総計審意見」の欄に○が付いている意見の内容を事務局で抜粋して記載したものです。【資料2】の「総計審意見」の欄が×となっている意見は、その隣にセルに「総合計画審議会意見」に反映していない理由を記載しています。×となっている意見についても、この後の、委員会討議を経て追加する意見があ

れば、追加させていただく想定をしています。

次に、2 頁目をご覧ください。「会議当日の論点について」でございます。本日の委員会討議に入る前に、委員の皆様 directional性を確認いただいた上で議論を進めていきたいことから、2 点の論点を提示させていただきました。

1 点目でございます。いただいたいご意見のうち、評価の様式や、記載方法に変更が必要となる意見については、「当日議論」とさせていただき、皆様の意見を伺った上で、次年度の内部評価方法を変更していきたいと考えています。

続きまして、2 点目、KPI に関する内容です。一部の KPI に関しまして、目標値等の変更が生じるものについては、皆様にご意見をいただき、次年度は新たな KPI や、目標値に沿って評価を実施したいと考えてございます。それぞれの項目につきまして、詳細をご説明させていただきます。

まず、頁中段の「『当日議論』とした意見」をご覧ください。1 つ目が、出石会長より事前意見としていただいたご意見です。【資料 2】23 頁、No.205「KPI の基準年がコロナ蔓延下の場合は、特殊な数値となっている可能性もあるため、評価をする際にはコロナ禍直前の数値も示した方が良い。」についてです。事務局の考えといたしましては、策定の際に、コロナ禍の影響等も考慮して、基準値や基準年を設定していますので、このご意見が「総合計画審議会意見」として出された際に検討させていただくものでございます。

もう 1 つも出石会長のご意見で、これは前回会議の際にご発言をいただいたものでございます。【資料 2】24 頁、No.209「施策詳細施策の『取組内容』の欄は、箇条書きの方が良い。」についてです。事務局の考え方といたしましては、前回会議で回答しているとおりで、内部評価は昨年度の審議会を経た方法や様式に従い作成しております。しかし、今年度の評価を踏まえまして、変更が必要なものに関しましては検討させていただきたいと考えております。これら 2 つの意見につきましては、本日、その directional性を確認させていただきまして、来年度の評価より、ご意見の趣旨に沿って変更していきたいと考えてございます。

続きまして、「KPI および目標値修正案」をご覧ください。

まず、第 1 回会議の資料事前送付の際にお示しさせていただいた、施策 14 詳細施策 2 についてです。KPI を設定した当時に実施されておりました調査が廃止されておまして、現在、【資料 3】56 頁に記載されております KPI「耕作放棄地面積」については、基準とした数値の実績値を今後把握できないことが判明いたしました。このことから、KPI とそれに伴う目標値を変更したいと考えています。新たな KPI といたしまして、「耕作放棄地解消面積（令和 4 年度からの累計）」を設定し、目標値につきましては、直近 5 年間の耕作放棄地解消面積の年平均が 0.5ha であることから、令和 4 年度から令和 6 年度の 3 年間で毎年 0.5ha ずつ解消すると仮定し、「1.5ha」とさせていただきたいと思います。

次に、A 評価となっております累計数値である施策 9 詳細施策 3 及び推進エンジン 2 詳細施策 3 につきましては、新たな目標値とその算出根拠をお示しさせていただいております。

施策 9 詳細施策 3 につきましては、「市民学校卒業生・修了生の担い手実践活動人数」が目標値である「90 人」を超えて「143 人」になったことから、定員が 100 人で、90 人が卒業し、

その60%が活動となると、2年間で108人が増加すると仮定し、「251人」といたしました。

推進エンジン2詳細施策3につきましては、「SDGsパートナー登録者数」が目標値である「260者」を超えて「272者」となったことから、第1期登録数である37者のペースで、今後2年間、計74人が増加すると仮定し、目標値を「346者」といたしました。

以上、論点といたしましては2点、項目といたしましては5点の内容につきまして、まずは委員の皆様よりご意見をいただきたいと考えてございます。説明は以上でございます。

【出石会長】

ただ今、事務局より説明がありました。

【資料2】の「総計審意見」に、○や×がついており、○については、【資料3】の「総合計画審議会意見」に意見が反映されていて、×のところについては、意見として【資料3】には反映していないということです。次の議題で、中身については議論したいと思いますが、当日の論点に入る前に、まずはそのような進め方でよろしいでしょうか。（「異議なし」の声あり）では、そのように進めます。

では、委員間討議に入る前に、ここで整理しなければならないことは「当日議論」となっている2点です。

1つが、「KPIについて、コロナの影響があったようなものについては、コロナ禍直前の数値も合わせて示した方が良い」という意見に対しての考え方と、「施策・詳細施策」の「取組内容」が、今は文章化されていますが、それを箇条書きとしたらどうかという意見です。いずれも、市としては、今後、対応を検討したいと方針をお示しいただいていますが、これについて、どうするか確認をしてみたいと思います。

まず、コロナ以前の数値を参考として示すかについて、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。市としては、ここまで資料を作り上げてきているので、修正するのは、正直言えば、なかなか大変だと思うので、できれば原案のとおり進めていき、必要があれば示していくことを考えたいということです。委員の皆様からもし意見があれば。別所委員どうぞ。

【別所委員】

もちろんコロナ禍直前の数値が参考値としてあった方が望ましいものもあるかもしれないとは思いますが、コロナというもののインパクトが、どういう形で、それぞれの項目に影響しているのかは、不明瞭な状態だと思っています。なので、仮に数値を書いたとしても、それが、どんな影響があったのかが分からないまま記載するということになります。記載するのであれば、そういった影響に関することを分析した上で記載していく必要があると思います。なので、直ちにそこを反映させるということは、かなり難しいと思います。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。佐藤委員どうぞ。

【佐藤委員】

今の段階で記載するのは難しいかなと思いました。ただ、今回の総合計画の指標を見た時に、コロナ禍の特殊な数値なのではないかという疑念は多分出てしまうのかなと感じるので、参考資料として、過去の数値を載せることがもし可能なのであれば、その数値を示すだけでも、市民目線の報告書になるというか、市民が必要な情報が載るということに繋がるのではないかと考えました。どれくらい市に負担がかかるのかわからないのですが、詳細な検討までいなくとも、ただ単純に情報として、コロナ前の数値が載っているということは必要ではないかなと考えます。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。他はいかがでしょう。

コロナの影響に関しては、大学もそうですが、実際にかなりあったわけです。そういうこともあって、この後のKPIの修正もそうですが、いろんな部分に影響してくる可能性があるのではという考えから申したところでした。たまたま、他の自治体でも、同様の発言をしていたのですが、その後ですね、私自身が思うことは、そういった影響については、今後、詳細施策の「取組内容」に書くことは可能であるということが1つ。これは次の議論に繋がるのですが、今回、KPIの目標値修正が出てきていますが、今後も、総合計画を進めていくにあたって、必要に応じて修正をしていくという考え方であるならば、その時に反映できる。コロナ前の数字というよりも、コロナを踏まえて、新しい段階に入ってきているので、コロナの影響が変わったことによって、数値そのものを変えていくことが可能です。そういう意味で言えば、別所委員からあったように、どの項目についてコロナ禍前の数値を入れる、入れないとか、全部精査するのは難しいですし、佐藤委員からもあったように、必要なものを入れれば良いのかという意見もあるわけですが、なかなか整理が難しいと。自分で意見を言っておいて恐縮ですが、そのような気がしています。

ですので、今後取り組む中で、必要に応じて、コロナ禍前の数値が必要になれば、市の方で示して、ここがこう変わってきているということを、「取組内容」で説明してもらおう形はどうかと思いました。私が提案して、私がまとめて恐縮ですが、よろしいでしょうかね。（「異議なし」の声あり）では、この点はそのように整理をします。

続いて、「施策・詳細施策」の「取組内容」を箇条書きとするかどうかです。こちらも、確かに昨年度の議論を経て評価の仕方を決めたので、そのとおりにしたと言われてしまうと、我々も何も言えないです。そうではなく、改めるところは改めていけば良いわけです。市民目線というか、市民の立場に立った時に、どうなのかを考える必要があると思います。市の方も、来年度以降の評価の際に検討するっていうことであるならば、私としては、今年度はこれでいき、来年度からは、もう少しわかりやすくというか、箇条書きなりの採用を検討したらどうかと思いますが、どうでしょう。鈴木委員どうぞ。

【鈴木委員】

箇条書きの方が見やすいです。現状、ずらずらと文章が書いてあるのを読むと、読んでいるうちに内容がごちゃごちゃになってしまいます。箇条書きで書いてくださると、その方がわかりやすいと感じました。

【出石会長】

ありがとうございます。他はいかがでしょう。奥委員どうぞ。

【奥委員】

他自治体の例を見ますと、割と取組を列挙している自治体は多いです。確かに見やすさという面では、箇条書きの方が見やすいということはあるかもしれませんが。ただ、そうすると、ただ取組を羅列しているだけで、それぞれの取組の関係性がどうなっているかとか、全体として、どういった効果が出ているのかという行間が全く表されなくなってしまいます。なので、そういう意味では、私は文章でしっかりとそれぞれの取組を説明しつつ、それらの関連性も含めて、しっかりと PDCA を意識した中身を書いていただく方が望ましいと思っています。評価という観点からはですね。ただ、見やすさの観点で、必ず箇条書きにしないとダメなのかっていうと、もう少し工夫の余地があるのかなと思います。

【出石会長】

ありがとうございます。木村委員どうぞ。

【木村委員】

今のおふたりの意見の折衷案みたいな感じになりますが、私はですね、取組内容に 4 行、5 行で書かれている内容が、市の各担当課によってバラバラになってしまっているところが気になります。そういう意味では、前年度 1 年間の取組で、こういうところの取組をして、こうなったってところが、箇条書きで書かれてもいいと思います。ただ、その中でも、どうしても説明をしなければ伝わらないような内容があれば、補足として下に文言を入れるような形で。基本的には、取り組んだ内容については箇条書き、その理由付けが何か入れなければわかりにくいものについては、それを補足したら良いと思います。

【出石会長】

まとめていただいてありがとうございます。他にはいかがでしょう。有賀委員どうぞ。

【有賀委員】

重点施策の「取組内容」は、主に、具体のアクションにおける記述になるかなと思われまので、現状のとおり、文章では良いのではないかと考えます。

詳細政策に関しては、やはり内容が多岐に渡っているの、箇条書きの方が伝わりやすい

かなと思います。例えば、【資料3】32頁、施策2詳細政策2「高齢者支援・相談体制の充実」では、先に説明があって、あとは箇条書き形式で書いてあります。こういう書き方であれば、割と分かりやすい。例えばですけれども、参考にしてみると良いかなと思いました。

【出石会長】

ありがとうございます。他、どうでしょうか。益田委員どうぞ。

【益田委員】

私も、他の方々と大体一緒ですけれども、「取組内容」は、箇条書きでわかりやすくして、さきほど、奥先生がおっしゃったような、行間というか、その繋がりというか、それがどのように評価されるのかという部分は、「総合評価」で文章として書いてありますので、そういう形でやると、取組があって、こういう風な評価がありましたというように、詳細に書いていけば、ちょっとわかりやすいのかなと思いました。

【出石会長】

はい、そうですね。「総合評価」という欄が別途ありますので、「取組内容」の書き方と「総合評価」の関連という部分もあるかもしれませんね。他、いかがでしょうか。荒井委員どうぞ。

【荒井委員】

事務局にお伺いしますけれども、「取組内容」の書き方は、改行してはいけないのでしょうか。今ちょっと見ていたのですが、全部の文章が続いています。例えば、「また」とかというところを改行したら、箇条書きに近くなるのではないかなと思っています。

【出石会長】

改行、改段落ですね。我々の業界はやはり形式的に段落は変えろと言われていました。そういう意味でも、確かに箇条書きに近くなりますよね。そういう案もありますね。どうでしょうか。大体、論点は一緒で、なるべくわかりやすくという意味ですよね。分かりやすさがどうあるかということなので、1つの結論としては、今回、これをさらに書き直した上でどうこうというよりは、市の方も言っていますが、次年度に向けて、今、何人かのご意見がありました、重点政策の「取組内容」の書き方と、詳細政策の「取組内容」の書き方に違いがあっても良いだろうし、「総合評価」と、「取組内容」の書き方の整理とか、それから、箇条書きが良いかどうかはともかくとして、段落を変えるような形として、内容が見やすくなるように、工夫されるようにするっていうのもあります。

ちょっと私も一言加えておくと、大学の先生はご存じだと思うのですが、大学では、7年に1回、自己点検評価という、認証評価を受けます。それにあたって、大学もこんなようなことをやって、自己点検の評価をしていて、取組のところに「GPリスト」と「タスクリスト」を

書きます。GPというのは、グッドプラクティスです。良い取組、うまくいっていること。タスクリストは、課題や積み残しなどを書いています。それを分けて書きます。ある意味、そういう工夫もあっていいのかなと思います。ここの「取組内容」の書き方を、欄を分けることも可能だし、そうすると総合評価を書きやすくなると思います。

いずれにしても、委員の皆さんがよろしければ、今日出された意見を、市の方で参照していただいて、来年度には、また書き方を変えて良いと思います。よりわかりやすい「取組内容」にブラッシュアップしていただくということで、今回、我々からの意見として出すということではいかがでしょうか。（「異議なし」の声あり）では、そのようにさせていただきます。

続いて、【資料1】の2頁の下の方ですね、「KPIおよび目標値修正案」です。

今回、2点ですね、数値を改めるという説明もありましたが、そもそも数値を変えていくこと自体の是非、多分、変えていくべきだろうという雰囲気は前回もあったと思います。確認ですが、今後、同様のケースが出てきた場合、出てきたというか、目標として設定していた数値が現実的ではないということが判明してきたものが、今後の計画推進の中で出てきた場合、市はどのようにしようと考えていますか。

【企画政策係長】

市としましては、計画当初から皆様とお話していましたように、フレキシブルに、変えていく部分を変えていきたいと思っています。今回については、資料にお示したとおりですので、今後も変えるべき部分がありましたら、皆様にご相談しながら、変えていきたいという考えでございます。

【出石会長】

はい。ということで、適宜変わることがあるという前提で。今回は、その最初のケースですね。KPIを修正することについてご意見がありましたらお願いいたします。特に、よろしいでしょうか。やはり、市の方で精査して、より良い、より適切なKPIに直してきたということで、そのKPIが妥当かどうかということは、これまで全てを我々がチェックしてきたわけではないですので、方向性について、了とするということではよろしいでしょうか。別所委員どうぞお願いします。

【別所委員】

KPIの修正について、もちろん異議はないです。出していただいた数値そのものについても、異議はないのですが、「目標値の算出根拠」については、もう少し丁寧に記載をいただいた方が良いかなと思っています。と言いますと、「耕作放棄地解消面積」、「SDGsパートナー登録者数」についてですが、例えば、「直近5年間の耕作放棄地解消面積の年平均」を使っています。担当課においても、年平均をオントレンドで延長することが、妥当なのでこれをKPIとして採用するということだと思います。なので、トレンドが適切だということを何か付記していただけるとありがたいかな。同じように、346名の計算もそう。37名のペースで毎年

増加する仮説ですけど、37名という数字を使うこと自体の妥当性を付記していただくと、KPIそのものがしっかりしたものだということに見えますので、その辺をちょっと付記していただきたいということをお願いできればと思います。

【出石会長】

ありがとうございます。算出根拠自体は【資料3】には反映されませんよね。なので、どういう風にしましょう。【資料1】に限って反映すべしという意見でよろしいですか、要は、全ての施策のKPIについて、算出根拠が明文化はされていません。市は持っていると思いますけれども、例えば、もっと言うのであれば、どこかにちゃんと算出根拠を示しておくべきだという考え方もあると思います。

【別所委員】

そうですね、現状で言うと、この部分にだけでいいと思っています。そういう表記の仕方が適切であるということであれば、色々なところに広めていただきたいと思います。1度には無理だと思いますので、少しずつできるところからと考えております。

【出石会長】

それでは、今後もKPIの修正等があり得るということでしたので、その時には目標値の算出根拠を明確にする、そのデータのエビデンスというか根拠を示してもらって、審議会に挙げてもらうということにしましょう。市の方はそれで対応できますね。

それでは、議事(1)「前回の論点に対する事務局の考えについて」については終了します。

2 議事 (2) 第6次小田原総合計画評価に係る委員間討議

【出石会長】

続きまして「(2)第6次小田原市総合計画評価に係る委員間討議」です。こちらは事務局から説明はありますか。

【企画政策課長】

事務局から追加の説明はございません。委員の皆様方でご討議をいただければと思います。

【出石会長】

はい。では【資料2】と、その内容が反映された【資料3】をご用意いただいて、テーマごとに、議論が拡散しないように順番に進めてまいりたいと思います。

最初に「まちづくりの目標」ですね。えっと【資料3】1頁、【資料2】1頁から2頁にかけて、No.1からNo.11です。右の方に○が付いている意見は反映されており、○が付いていない、×が付いているところは、その理由が隣に書いてあるという状態です。こちらについて、ご

意見等がありましたらお願いいたします。

なかなか全てが、反映できないことは承知の上ですが、どうでしょう。ここの意見はよろしいですか。かなりの情報量なので、全部、目を通していないかもしれませんが、ご確認ください。【資料3】の1番下の「総合計画審議会意見」を確認する必要がありますね。これまで議論されてきたことをまとめているということでもよろしいですよ。特によろしいですか。オンラインの方もよろしいでしょうか。

それでは、「まちづくりの目標」については、この修正のとおりということで、特に意見なしとさせていただきます。

続いて「重点施策」です。【資料3】は2頁から29頁まで、【資料2】では2頁から11頁までです。特にご自身が出された意見についてどうなっているかを確認していただいて、ご意見等がありましたら、お願いしたいと思います。

どこからでも良いのですが、例えば「重点政策1 医療・福祉」の「総合計画審議会意見」が【資料3】2頁にあります。審議会としての意見をまとめているところですから、確認をお願いします。同様に、各重点施策の最初の頁に、「総合計画審議会意見」があります。そこを特に目を通してください。【資料2】には、前回の議論内容と、書面でいただいた意見は基本的に反映されているということだと思います。ご自身が出された意見で、ここがもう少しこういう風に記載してもらった方が良いとか、そういう点がありましたら、ご意見をいただければと思います。次の「施策・詳細施策」は、もっとボリュームがあるので、なかなか全部に目が行き届かないかもしれませんが、また今回も1番最後に、別途、意見書が出せるようにしてあります。今回の審議会は今日で最後なので、後で出てきた意見については、事務局と私で調整をして、また委員で確認してもらって、場合によっては修正が入る可能性があります。ですが、できれば、今日ここで意見をいただきたいところです。奥委員どうぞ。

【奥委員】

備考欄に数値が示せていない理由を書いてくださいという内容が、私が出させていただいた意見です。【資料2】No.21ですけれども、例えば【資料3】3頁の「二次救急医療圏域内自己完結率」は、いつ数値が出るのか分からないという回答が【資料2】に書いてあります。いつまでも数値が出ないようであれば、KPI自体も見直すかもしれないと書いてありますが、そうすると、今後どうしていくのかっていうことも含めて、備考欄に、「今の時点では公表されていません」だけでなく、いつ頃公表される見込みなのかとか、もし分かれば記載いただきたい。公表されない場合は、KPIの見直しも検討しますということまで書くかどうかですけれども。いずれにしても、5頁もそうですが【資料3】に「(平成30年度/令和〇年度調査結果)」とありますが、【資料2】には「令和7年度に第2期小田原市健康増進計画の中間となることから、その時点で最新の健康寿命を算出したいと考えています」と書いてあるので、そうであれば、【資料3】にもそのようにも書いていただきたい。ただ、これだとなぜ実績値が入ってないのかの説明になっていないですよ。

【出石会長】

そうですね。例えば【資料3】3頁で「県で算出される実績値が現時点で公表されていません。」となっていますが、ここが空欄になっている理由を書かなければいけないでしょう。加えて、いつ頃には公表されるなどの見込みがあれば、それを書いた方が良いという意見でした。市側の所見があれば、お願いします。

【企画政策係長】

ありがとうございます。【資料2】において、所管とも調整し一定の回答をご用意させていただきました。本日のご意見を踏まえまして、関係所管とも調整の上、【資料3】の記載については考えたいと思います。

【出石会長】

資料を見たところ、他の重点施策の全てについて、令和4年度の実績値が横棒(-)のところは、備考欄にコメントが入っています。入っていますが、数値がない理由がこれということをちゃんと書くことだけはやってください。加えて、丁寧に記述することは必要だと思うので、奥委員の意見を担当部局に伝えて、修正していただければと思います。他、いかがでしょうか。渡邊委員どうぞ。

【渡邊委員】

医師会の渡邊です。今の点についてですが、これはまさに、コロナ禍においてデータがすごくバラバラになっているところです。二次救急医療に関しても、コロナが絡んで、一言で言うと乱れています。なので、そのあたりが分かるように記載していただければ良いのではないかと考えています。

あともう1つ、健康寿命に関して、これも高齢者の死亡率がコロナでかなり変動しました。死亡率が高くなりましたので、それが平均寿命にどんな影響が出るかどうか、このあたりが県の方でも数値が算出されていない理由の1つではないかと思っています。なので、分かる範囲で、記載していただけると良いのではないかと考えています。

【出石会長】

ありがとうございます。同様の意見で、やはり実績値がないところについて丁寧な説明をするということでもよろしいですかね。はい。他にはいかがでしょうか。

重点施策1から7、全てに対してですが、最後もう1回全体の確認を取りますので、その際、あるいは事後の意見ということで、また出していただければと思います。

続いて「施策・詳細施策」です。「推進エンジン」は後の方で見るとして、【資料3】30頁から79頁まで。かなり量がありますが、こちらについてご意見がありましたらお願いしたいと思っています。こちらについては、「総合計画審議会意見」が、施策番号ごとにあります。少し時間を取りますので、確認しつつ、気付いたところがあったら、挙手をお願いいたします。

事務局に確認ですが、何箇所か「※意見なし」があります。これはこれでよろしいですか。

【企画政策係長】

本件について、のちほどご相談させていただきたいと思っていました。【資料2】をご覧いただければわかるとおり、皆様のご意見としては、全施策に添えていただいておりますが、【資料3】の事務局案として、現在は「※意見なし」としてあります。表現としては、もう少し、色々あるかと思えます。「総合計画審議会としては、特段、意見はございません」とかいうように、文章的にすることも可能とは、思っています。最終的に、そういった形で、修正してよろしければ、妥当性があるようなコメントに修正をして統一したいと思っております。

【出石会長】

この点いかがでしょうか。おそらく、特に問題がないという認識でもないとは思いますが。悪いって意味ではなくて、要は、網羅的に意見を伺っている中で、この施策については、この場では意見が出なかったということだと思います。一件ずつやっていけば、必ず意見は出ると思えます。しかし、それだけの時間がないので、「適切に推進されている」というか、それを書くとしたら、多分全部にその主旨を一旦入れなきゃいけないと思えます。

どうでしょう。それぞれを見ていただきながら、この「※意見なし」の部分について、今から意見を考えるか、あるいは書き方を工夫するか、どうでしょうか。これだけ全て総計審が事細かに全部に対して意見を出すところは、私が委員を務めている他市町村ではありあせん。丁寧に総計審の役割が、非常に細かいとこまで目が届いているということになると思えます。多分、一般的には、重点施策くらいまでに意見を出すぐらいで、個別の施策については、個別の事業が積み上がっているもので、計画の上位の方で評価をすれば良いだけなので、「特になし」にしましょうか。はい、ジェフリー委員どうぞ。

【ジェフリー委員】

全体的な意見ですけど、例えば、施策16「観光」で、観光客の数や、取組内容に何を実施したのかの説明があるのですが、できれば取組内容については、やっていることの数字や、具体的なデータがあれば示していただきたい。例えば、観光客数や、取組内容でeスポーツやAIビーコンなど色々書いてあるけど、ちゃんと成功しているのか、失敗しているのかなど、もう少し知りたいです。

【出石会長】

おそらくこの内容は、前回議論すべきことだったと思いますが、前は欠席でしたね。

今日はそれを踏まえたまとめの日なので、今議論が始まると、多分、全ての項目に対して同様に数値的なエビデンスがあるべきという話になってしまうので、できましたら次年度に向けた方針として、先ほども「取組内容」の書き方については議論したところですが。それに加えて、必要に応じて、客観的なデータを示すことも考えてもらいたいという意見をいただ

いたということでもよろしいでしょうか。

【ジェフリー委員】

はい、そうですね。

【出石会長】

もう1つ考えられるのが、これも今後の検討で良いですが、本体とは別に資料集を作る手段はあると思います。市は必ず持っているはずなので。これだけで86頁もある資料ですので、これをさらに増やすことが必ずしも望ましいとは思いませんが、資料集を用意することは考えてもらっても良いと思います。それらを含めて、来年度に向けた改善提案の意見とさせていただきます。市の方もそのように受け止めてください。関委員どうぞ。

【関委員】

【資料3】については、事務局が非常に頑張ってくださいまして、大変ボリュームのあるまとめ方で、非常に見やすくなっていると思います。その上で、先ほど会長がおっしゃったように、総合計画審議会がかなり個別のところまで意見を出し、さらに記述していくスタイルは本当に珍しいと思います。そういった意味では、委員の皆様が幅広く意見を出したこと、それと、しっかりとその意見を事務局が受け止めて、ご記入いただいたということは、とても評価したいと思います。なので、先ほど会長がおっしゃったように、個別事業のところまで、やはり時間がないため、各委員が全てに意見を出しきれなかったということは正直な部分だと思います。「意見なし」というよりも、「特段の意見がなかった」と書いていただくことによって、委員がかなり細かく、個別の施策までかなりちゃんと見たということが反映されたという形になると思います。

【出石会長】

ありがとうございます。では、今「※意見なし」としているところは、ちょっと書き方について今後調整させてもらうとして、今の関委員の意見だと、「特段の意見がなかった」とか、そんな表記が良いのではないかということでもよろしいですかね。最終的な表記は工夫させていただきます。この点はよろしいですか。では、意見がなかったという事実を書くようにします。書き方は、もう少し考えます。

他、いかがでしょうか。「施策・詳細施策」ですね。施策としては25、その中に詳細施策がかなりありますが、よろしいでしょうか。では、これもまたのちに、ご意見があったら言っていただくことにしたいと思います。

続いて「推進エンジン」です。【資料3】80頁から85頁までです。

先ほど、言いそびれましたが、議事(1)において、KPIの修正をしたのですが、今度の「推進エンジン」だと83頁のKPI、それから56頁、施策14「農林業」の詳細施策のKPIについては、資料上、直っていませんよね。

【企画政策課主任】

今年度の段階では、【資料3】において目標値の修正をしておりません。「総合評価」において、次年度以降は、先ほどお示しした、新たな目標値に基づいて評価をさせていただきたいという意思表示をさせていただいております。理由といたしましては、今年度の実績として、A評価になったという事実をまずは載せないと、目標を達成した事実がわかりません。目標達成したという今年度の実績に基づいて「総合評価」に記載のあるように、次年度からは新たな目標・KPIで評価させていただきたいという過程をお示ししています。

【出石会長】

失礼しました。そのとおりですね。それで「総合評価」にその内容が書いてありますね。私がちよっと見落としていました。56頁のKPIの修正は、右下の「総合評価」のところに、赤字で書かれています。それから、今ちょうどテーマになっている、推進エンジンだと、83頁の、推進エンジン2詳細施策3の「総合評価」のところに、やはり目標値を修正することがちゃんと記述されています。要は、今回は、大元のKPIや目標値で評価をした上で、評価を実施した結果、変えるものは変えるという意思表示をして、次年度から変わるということですね。大変失礼しました。

では改めて、「推進エンジン」の内容でご意見等がありましたらお願いします。推進エンジンは横串を指すようなものですし、昨年度も特に議論になっていたのは、推進エンジン2や3が相当議論になりましたね。「公民連携・若者女性の活躍」それから「デジタまちづくり」。従来も様々なご意見、ご指摘がありました。今回もご意見がありまして、それらが意見として記載されております。前回、言い尽くせなかった意見等がありましたら、よろしく願います。よろしいでしょうか。

それでは、最後に【資料3】86頁、「その他評価全般に関する総合計画審議会意見について」です。各項目に記載することがふさわしくない、全般にわたるような意見がこちらに記載されております。このあたりを意識して、来年度以降、事務局が内部評価をしていくことになると思います。とりあえず、よろしいでしょうか。もう前回に十分議論されてきたことの確認でしたから、ここまでにします。

全般通して【資料2】と【資料3】の内容について再度確認をしますが、何かご意見等がありましたら、お願いいたします。はい、信時委員どうぞ。

【信時委員】

先ほど言いそびれましたが、「施策・詳細政策」の観光の関係と、商業の関係です。特に、商業の関係は、入込流動客数を気にされていますが、実は観光も同じだと思います。ただ観光客を増やすというより、数を増やすことが目的なのか、数を増やすことによって売上を上げるということが目的なのか、そこがはっきりとしていない。観光課と商業振興課で、そういう連携をとって価値観を共有されているのかどうか。私は、流動客調査で、流入客数の

みを指標にしていることは、少し違うのではないかと思います。目的は商業なので、売上や、単価上昇みたいなところを本当はチェックすべきだと思います。いくら観光客が来たとしても、何も買わないで帰ってしまうと、市のコストだけが増えてしまう。ゴミとかその辺の問題も同じです。【資料2】において、「事業者等の売上額や単価等については、秘匿すべき企業情報や個人情報に該当し、情報取得が困難」とありますが、それが取得できないと、評価もできないと僕は思います。なので、客が来てくれることだけに価値を持っているのか、そうじゃないのかという部分について、2つの部署で、何を目標にするのかという部分をしっかり検討された方が良いと思います。これは総合的な部分にもかかってくると思いますけれども、そういうところをちょっとチェックされたら良いかなと思いました。

【出石会長】

【資料3】60頁、施策16「観光」になると思います。今のご意見は、今後の取組ということですかね。

【信時委員】

つまり、何を評価軸にしているのかということです。観光客をKPIにするということはすごく理解できますけれども、それが目的ですかということだと思います。

【出石会長】

市の方で何か見解はありますか。

【企画政策係長】

ご指摘ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりだと思っております、経済部という同じ部内にそれぞれの課が属しております。その他にも、一次産業を司っているような所管や、事業者を取りまとめて関係しているような所管も経済部には入っております。今、ご指摘いただいた部分も含めて、経済部長を筆頭に、連携した打ち合わせを実施している状況です。まだまだ、足りない部分もあるとは思いますが。企画部も介入しながらサポートをしているところです。ご指摘のとおり、なかなか難しいとは思っていますが、観光客消費額や、流動客をそれぞれ詳細施策の指標にしています。その上位といいますか、「地域経済の好循環」に関するKPIとして、「1人当たり課税対象所得」や「観光客消費額」を置いており、そういったところで、市民の豊かさに寄与したというところを見ていきたいと思っています。

1つの指標だけで、目標に向けた進捗を図ることは難しいと思っておりますので、それぞれが相乗効果の中で、伸びていくというところを見定められるような形、もしくは、一方が伸びていて、一方が減っている場合という部分の原因も、担当所管と調整しながら、今後の施策展開に生かしていきたいと思っております。

【出石会長】

今の件は、結構大事な点だと思います。61頁の「総合計画審議会意見」に、今の意見を追加したらどうでしょう。まさに観光政策としての基軸を、観光客数と、利益とか、売上等との関係を担当部局等でしっかりと調整しながら方針を立てるべきであるみたいな形でしょうか。

【信時委員】

良いと思います。とにかく2つの課で情報共有して、価値を共有することが重要です。

【出石会長】

はい。他の委員の方で、今の点について異論がなければ、施策16の「総合計画審議会意見」に1つ、追記させてもらいたいと思います。（「異議なし」の声あり）はい。では、そのように対応願います。続いて、有賀委員、お願いします。

【有賀委員】

細かいことになりますが、「総合計画審議会意見」の表記について、かなり体言止めで終わっているような表現が見受けられました。例えば6頁の意見ですけど、「～進めるべき。」とか、「～重要。」というところで終わっているので、このあたりはきちんと文章にしてお伝えした方がよろしいかなと思いました。

【出石会長】

ご指摘はごもっともだと思います。混ざっているのが一番良くないですね。体言止めと、動詞で終わるところが混ざるのが一番良くないので、全体の方向性を決めて、体言止めにするなら、全てすべきだと思いますので、そこはやはり最後までちゃんと書いた方が良いでしょう。「～すべきである。」とか、「～が重要である。」とかっていう形で。

【有賀委員】

もう少し優しい表現でお願いできればと感じました。

【出石会長】

では、記述の統一性は任せていただくという形で修正するという事でよろしいですかね。ありがとうございます。他には、いかがでしょうか。はい、益田委員どうぞ。

【益田委員】

今後のことになりますが、この評価が終わって、総合評価というものをどのような形で市民に対してお伝えするのでしょうか。広く市民に知っていただく方法を教えてください。

【出石会長】

はい、じゃあ事務局からお願いします。

【企画政策係長】

今後の周知に関する考えです。現段階での予定としましては、委員の皆様と共に評価をしているという事実を、広報でお知らせしたいと思っています。まだ確定はしておりませんので、予定という形でお聞きいただければと思いますけれども、広報10月号で、そういった記事を載せる予定です。当然、この評価報告書の冊子の内容全てを語ることは、広報では無理ですので、こういう取組、総合計画の評価を初めて実施しましたということをお伝えしつつ、評価報告書の結果は、ホームページに掲載します。

【出石会長】

はい、他にはいかがでしょうか。木村委員どうぞ。

【木村委員】

【資料3】86頁の確認ですけれども、以前確認したかどうか、ちょっと私もうろ覚えなので、確認しますけれども、各項目がですね、A、B、C、Dの評価の部分で、BとCのところが、各担当課の裁量による部分があり、なんか曖昧になっています。B、Cの全体を統一的な視点で、どこまでいったらB、どこからどこがCという基準と言いますか、統一性について来年度はどうするという話がありましたでしょうか。ちょっと確認です。

【出石会長】

どうぞ、事務局からお願いします。

【企画政策係長】

はい。本件につきましては、まずは現段階の話になりますが、定量という意味でKPIによる値と、定性という意味で取り組んできた内容などを踏まえて評価をしています。統一性がないということは、定量だけでなく、定性も加えている段階で、統一性がなくなっているとか、明確な境界線が取りきれていないということだと受け止めています。

今後について、定量だけの評価を行う可能性も当然ありますが、定量だけではその事業の効果等について測りきれない部分もあるため、定性的な内容も踏まえて評価をしていきたいということで、昨年の審議会において、皆様とご議論した結果、現在の方向性にさせていただきました。

今後の考えですが、今回、1年目としてまずは評価を実施しました。一部、ご指摘いただいた部分については、適宜、修正しながら来年度の評価に取り組みたいと考えていますが、評価の仕方は、定量と定性を踏まえた方法で、引き続き来年度も実施したいとは考えています。表現方法ですとか、既にいただいたご意見で、今後、反映できるようなものは、反映しなが

らも、大きな路線としては、同じ形でもう1年評価をし、定量と定性の2つの方法による評価方法を見定めた上で、来年度は、第2期実行計画の策定でもありますので、柔軟に対応していきたいと考えているところでございます。

【出石会長】

はい、どうでしょうか。

【木村委員】

事務局より話がありましたが、定量的となると、各部や課で、例えば何%までいけばB、何%以下であればCという、定量で測れて、見える化できる基準を示していくという考え方で捉えて良いのでしょうか。それだけでは評価しづらい部分については、そのあたりを加味しながら検討してほしいという指示を、全庁的に企画部の方で指示を出す形でしょうか。

【企画政策係長】

端的に申し上げさせていただきますと、評価の仕方は今年度と同じ考え方で来年度もやらせていただきたい。つまりは、定量と定性の両方を踏まえて、内部評価を実施していきたいという考えです。そのため、定量だけで評価を付す考えは現時点ではありません。

【出石会長】

今の木村委員のご質問を引き取りますと、定量で評価ができてしまえば、1番簡単です。試験なんかで例えて言えば、整合がはっきりしているものは点数がちゃんとつきます。けれども、試験で言うと、論文などの定性のものが入ってきますよね。そういう時に、どう評価するのかはすごく難しいです。

今の事務局の説明だと、所管部局に判断を任せているようにとれます。数字だけで定量的に判断すればわかりやすいのですが、それこそコロナが1番わかりやすい例ですけど、「コロナの状況があるので取組が止まってしまった。しょうがないよね。だから定量だけで判断するとCだけど定性も含めてBとする」とか、「台風の影響でここの部分は実施したかったけど、事業が止まってしまった、これはしょうがないから評価は変えよう」というように、多分この判断はそれぞれの主観になってしまう。そうすると問題なのは、ある課とある課によって、同じような状況なのに違う主観が入り一方はBになり、片やもう一方はCとになるということが起こる。では、その全部を綺麗に判断できるかというと、それは定量にするしかない。で、定量にしても、今の話のとおりで、様々な不可抗力が働くので、それは定性を加えて、今の説明のとおり、定量と定性で判断して良いのですが、その前提となるメルクマールがないとバラバラになってしまいます。小田原市に限らず、どこの自治体でもそういう部分があります。なので、これだけしっかりとした総合計画評価をしていくのであれば、これは一委員として、木村委員と同じ意見になりますが、来年度以降に向けてですね、その2つの観点からの評価をするのは良いのですが、各課がA、B、C、Dの評価をつけるときに、ある程度ブレ

をなくすようなメルクマールを立て、示すべきと考えます。大学で言うと、大学の先生だとよくわかると思いますが、ループリックを指標として立てるということはすごく意義があると思います。一委員として私も申し上げたいと思います。木村委員よろしいですか。今、私の方で引き取っちゃいましたけれども。

【木村委員】

全くの丸投げではなく、企画政策課において、モデルじゃないですけども、こういった方針で評価してほしいというものは出して、その辺は、今、会長が言われたようにお願いしたいと思います。

【企画政策係長】

ありがとうございます。ご指摘を踏まえて、来年度より良い評価ができるようにしていきたいという前提ではございますが、一応、今回の経過だけ簡単にお伝えします。

まず、第一段階として、簡単に言うと所管の判断で、全て所管にお願いして評価を出してもらいました。そうした中で、評価判断のばらつきについては、正直、現状の段階よりももっとございましたので、第二段階として企画政策課において一定の調整を実施している状態です。

皆様からすると、まだまだばらつきが調整しきれていないと見える部分をご指摘いただいたご意見であると捉えています。今回、我々事務局も一定以上、所管部局と評価判断の調整をさせていただきましたが、今回のご意見を踏まえまして、来年度については、もう少し評価が妥当であると客観的にも見えるような形で取り組んでいきたいと思っております。

【出石会長】

他は、いかがでしょうか。関委員どうぞ。

【関委員】

会長のご指摘は、ごもっともだと思います。定量と定性が混在してくると、KPI を設定した時に、数字は非常に正確と言いますか、はっきりしますけれども、定性の部分についてはかなり主観が入ってくる。その全体調整を企画政策課で実施いただくという形で良いかなと私も思っています。

ただ、評価については、前からずっと申し上げているように、評価疲れをしないことがとても重要だと思います。各課には、とにかく事業の実践をするところに全力を出していただきたい。そして、その結果として実施してきたものが、定量では客観的に数字で上がったり、下がったりする、「実施できた」、「実施できない」、「実施できそうだった」のような形で定性が出てきます。なので、定性自体の評価を厳密にしすぎると、私としては、各課の動きが縮こまってしまうと思っています。評価は、あくまで実施した事業を事後で一定の見える化、可視化する部分だと思いますので、あまり評価についての厳密さですとか、各課に負担がか

かるような評価の仕方というのは導入しない形で、なるべく簡素化を図っていただきたいと思っていますところでは。

【出石会長】

ありがとうございます。そうですね、評価疲れの話はこれまでも議論していました。事業担当課が評価するにあたっては、ある程度の指標というかものさしがあれば、所管課としても評価が少し楽になりますよね。その辺りもまたご検討ください。他には、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それではですね、大体、議論も尽きたかなと思いますので、この2回に渡り実施した今回の総合計画の1年度目の評価について、以上で、まとめたという形にしたいと思います。

いま若干の修正がありましたけれども、そのあたりについて、今後の公表までの流れも含めてですね、事務局からちょっと説明いただけますか。

【企画政策係長】

本日いただいたご意見を、まず評価報告書に反映させていただく形を前提にお話をさせていただきますけれども、「総合計画審議会意見」の部分に関して、前回、本日までご意見をいただきまして、本日の中で、一部追記する部分もございましたが、基本的には方向性を大きく修正する意見はなかったと思っています。本日いただいた内容をもって、一部、微修正をかける必要があるとは思っていますので、修正したものに関しまして、皆様に、再度お示しさせていただき、最後、会長と確認の上で、総合計画審議会のご意見を確定するという形の流れでよろしいでしょうか。

【出石会長】

今日の議論をまとめます。特に、「施策・詳細施策」の「取組内容」の書き方については、今年度は、これを修正する必要までは認めなかったということで、来年度以降に向けて工夫をしてくださいということでしたから、評価についての修正は基本的にないということ。

それから、先ほどの信時委員の意見は「総合計画審議会意見」に加えましょう。施策16「観光」のところですね、「観光」のところの「総合計画審議会意見」に加えてもらいましょう。

それから、全般的に書き方の統一性を持って、体言止め等のところについてはしっかりと文章にして、分かりやすい文章に直すと。内容の変更ではなく、書き方の整理ということでした。大体そのぐらいでしょうかね。

では、その点を踏まえて最終的にまとめたものを私の方もチェックします。委員の皆様に確認は取ってもらおう流れでしょうか。

【企画政策係長】

会長と事務局で最終調整とするか、各委員にも確認いただいた方が良くどうか、どちらが望ましいかご判断いただければと思っています。

【出石会長】

どうでしょうか。これまでの議論の中で、委員同士が議論になって結論が出たという部分は多分ないと思います。ほとんど意見について、委員間では同じ意見で、こうしようという方向に進みました。なので、もし委員の皆様がよろしければ、今、私がまとめた、本日の会議の内容を踏まえて微修正した評価報告書を事務局と会長、副会長で整理をして最終形とする方向で、ご一任いただければと思います。（「異議なし」の声あり）では、そのように進めます。

2 議事 (3) その他

【出石会長】

それでは「(3)その他」です。委員の皆様から何かありますでしょうか。特によろしいですか。では、事務局から何か連絡等がありますか。

【企画政策課主任】

事務局より事務連絡をさせていただきます。先程、会長が整理いただきましたとおり、この場では出なかつたご意見について、ご用意させていただいている【資料4】意見書を用いてご提出いただければ、その意見を確認させていただき、会長にご確認いただいた上で、評価報告書に反映する、反映しないという判断をさせていただきたいと考えています。意見書は、来週の金曜日、8月25日までにご提出をお願いします。

続きまして、これも途中の質疑でありましたが、今後の公表に関する流れです。あくまで現時点での予定ですが、市の広報10月号において、総合計画審議会を経て、総合計画を評価しているという事実をお伝えさせていただく予定です。

また、各委員の皆様の任期に関する内容についてお知らせです。本日の会議をもちまして、今年度の会議開催は終了となります。昨年度、本審議会の規則を改正しております関係から、審議会の皆様の任期につきましては、年度末をもって解嘱となります。今回の任期に関しましては、解嘱状の送付がありません。年度末をもって自動的に解嘱という扱いになりますので、ご承知おきください。事務的な連絡は以上です。最後に、企画部長から一言ご挨拶申し上げます。

【企画部長】

改めまして、企画部長の齋藤です。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

本来であれば、市長がここに来て、最後に皆様にお礼を申し上げるところですが、公務の関係で叶わないこともあり、私から代理でご挨拶させていただきますことをお許しください。

出石会長並びに委員の皆様におかれましては、令和3年度の第6次小田原市総合計画策定から本年度までの3年間、本当に感謝申し上げます。今回の総合計画に関しましては、1年

前倒しでの策定だったということ、形式をだいぶ変えて3層構造から2層構造に変更、令和3年度は期間がかなり短い中での審議会開催などご無理を申し上げてしまい、ご苦労されたことも多かったのではないかと考えております。そのおかげをもちまして、自分で言うのもなんですが、小田原市の総合計画は、他に誇れる良い計画であると考えております。

私はここで4月から企画部に戻ってまいりまして、改めて総合計画に関わらせていただいています。外部評価という形で、小田原市として初めての総合計画評価を審議会の皆様にご協力いただきながら実施いたしました。我々職員だけでは思いつかないこと、気が付かないものを様々な視点からご意見やアドバイスをいただきました。この評価というフレームが素晴らしいものになったと考えております。それは、次に引き継がれていくこともありますし、来年度は第2期実行計画の策定に入りますので、我々もしっかりとやっていきたいと考えております。

皆様におかれましては、小田原市のまちづくりや市政運営、その他の諸々含めまして、今後ご協力いただければと思います。本当にありがとうございました。

3 閉会

【出石会長】

以上をもちまして、総合計画審議会の審議は終了となります。

この間、委員の皆様には、大変ご協力いただきましてありがとうございました。活発な意見があり、この計画ができ、そして1年度目の評価もできたということだと思います。

今、部長からもありましたが、小田原市の総合計画審議会や総合計画の取組は非常に先駆的というか、全国の自治体が総合計画を作り、運用していますけれども、小田原市の場合は、実態を伴った、PDCAがちゃんと回る仕組みが構築されていると思います。

今回で終わりではなく、毎年度しっかり回して行って、次の実行計画策定にあたって、また関わっていただく委員の方もいらっしゃるでしょうし、今後、仮に委員の任期が終わったとしても、引き続き小田原市の総合計画の推進あるいは市政の推進に関わりを持っていただければと思いますし、よろしく願いいたします。

以上を持ちまして、閉会といたします。ありがとうございました。

上記の内容に相違ないことを確認します。

小田原市総合計画審議会会長

出石 稔